

平成28年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	◎土屋勝浩 南波清吾 土屋陽一議長	○池田総一郎 古市順子 小林隆利副議長	松山賢太郎 半田大介	下村栄 三井和哉

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

今年度、新たに改選となった議会運営委員会では、議会改革への取組の一環として「一般会計予算・決算の委員会審査の在り方」について検討するよう議長より諮問を受けることとなりました。上田市議会では以前から予算決算の審査は所管の常任委員会による分割付託とされてきましたが、この方法では議案一体の原則から外れた運用となり、かねてより問題として指摘されてきました。また、平成18年に地方自治法が改正され、議員の常任委員会への複数所属が認められるようになったこともあり、他市では予算決算常任委員会という新たな委員会を設置し、予算・決算の審査を一体的に行う仕組みが広がりつつあります。

上田市議会としても議論を深める前に、こうした先進的な取組を学ぶ必要があると考え、上田市に人口規模で近い類似団体の中で、実際に予算決算常任委員会を立ち上げている久喜市の取組を視察させていただきました。

2 実施概要

実施日時	視察先	埼玉県 久喜市
平成28年10月12日(水) 10時00分～11時40分	担当部局	議会事務局
視察事業名	予算・決算審査について	
報告内容		

報告内容	1 視察先の概要 久喜市は、平成 22 年に旧久喜市、旧菖蒲町、旧栗橋町、旧鷲宮町が合併し、新しい市として誕生しました。茨城県と境を接しており、面積は約 82 km²と上田市の 7 分の 1 程ですが、交通の便が大変良く、都心のベッドタウンとして発展を続けています。人口は 151,000 人と上田市とほぼ同規模であり、比較検討するうえで最適な自治体として今回の視察先として選定させていただきました。 2 視察先の特徴 久喜市議会の議員定数は上田市と同じ 30 人。平成 22 年度から予算決算常任委員会を設置し、今年で 6 年目を迎えています。 今年度から全議員にタブレットを導入し、ペーパーレス化を図るなど、他の面でも先進的な取り組みが進んでいます。 3 久喜市議会の予算決算審査の在り方 ① これまでの変遷 (1) 平成 22～23 年度 予算常任委員会・決算常任委員会の設置 委員構成＝議長と監査役を除く全議員を半分に分け選任 委員任期＝他の常任委員会と同じ 2 年 ＊予算審査をした委員が翌年に当該決算を審査できるようにするため、選任 1 年後に全委員が一度辞職をし、予算常任委員会と決算常任委員会をそっくり入れ替える運用とした。 問題点＝予算、決算常任委員会以外の 4 常任委員会が、所管する事務の予算、決算を審査できない。 (2) 平成 24 年度～現在 「予算決算常任委員会」の設置 委員構成＝議長と監査役を除く全議員 委員任期＝他の常任委員会と同じ 2 年 ＊分科会方式を採用・・・付託議案は予算決算常任委員会の付託されたのち、他の 4 常任委員会の委員で構成する分科会に分担付託され、それぞれの分科会で所管部分を審査する。 ② 予算及び決算審査の流れ (1) 本会議で一般会計予算議案及び決算認定議案を予算決算常任委員会に付託後、理事者側から議案説明を受ける ↓ (2) 委員会の開催（提案者説明や質疑は省略） ↓ (3) 分科会の開催（1 日 1 分科会） ↓ (4) 委員会の開催（分科会長報告…討論はせず） ↓ (5) 本会議（討論・採決）
-------------	--

	③ 分科会の運営 ・分科会の委員＝所管の常任委員会の委員 ・分科会長・副会長＝分科会長は委員長、副会長は副委員長 ＊分科会での討論、採決は行わない。但し、分科会長は、分科会委員の賛否の意思表示を表明する機会を設ける。 ④ 予算決算常任委員会設置に伴う効果 ・分割付託の違法性が解消され、適正な委員会運営がなされる ・条例等の議案と一般会計予算議案、決算認定議案が同じ委員により審査されるため、事業と予算の整合性が図られる。 ⑤ 予算決算常任委員会の課題 ・常任委員会散会後に分科会を開催するなど、運営が複雑になる ・ほぼ全員が予算決算常任委員会委員のため、委員会２日目の討論・採決の後、再び同日の本会議で同様の討論・採決を行わなければならないなど、効率性に課題がある。
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	久喜市議会の視察をさせていただき、上田市議会としても大変参考になるところが数多くありました。 特に、上田市議会では今まで議案一体の原則から外れた運用となっていた経緯があるため、その解消にはやはり予算決算常任委員会又は特別委員会の設置が不可欠であると感じました。また、その委員構成については、今までの議会運営委員会内の議論では、議長と監査役を除く２分割方式が適当との考えが主流でしたが、これでは約半数の議員が審査に加われないこと、更には、所管の常任委員会の専門性を生かすことができず審査の深化が図れないことなどが課題として見えてきました。その点では、分科会方式を採る久喜市議会のやり方は、運営の煩雑性はあるものの、現状の４常任委員会の能力をフルに発揮でき、より細部にまで配慮がされた審査が出来ることが利点であり、十分検討に値すると考えています。 また、分科会の開催についても「１日１委員会」を原則としているため、審査に参加できない議員も「委員外質問」というかたちで参加が可能であり、殆どの議員が担当の分科会以外にも出席されているということです。上田市議会では委員会開催日が重なっているため、議員が全ての審査に立ち会うことは事実上不可能な状況ですが、こうしたやり方を取り入れれば、皆が参加でき、市の事務事業に関して幅広い理解ができるよい機会になると感じました。 現在、上田市議会では今後の予算決算審査の在り方を早急に決めなければならない時期にきています。今回視察させていただいた久喜市のケースも参考にしながら、今の時代と上田市議会の実情に合った方法を、議員全員で検討していきたいと思います。

平成28年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	◎土屋勝浩 南波清吾 土屋陽一議長	○池田総一郎 古市順子 小林隆利副議長	松山賢太郎 半田大介	下村栄 三井和哉

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市議会では現在、予算・決算審査は4つの常任委員会に分割付託されており、これは「議案一体の原則」にそぐわないと考えられることから、今後、予算・決算委員会を設置することを視野に入れて検討中である。

このたび、予算審査特別委員会と決算審査特別委員会を設置している千葉県八千代市へ行政視察に伺い、同市の取り組みについて調査研究をさせていただいた。

2 実施概要

実施日時	視察先	千葉県 八千代市
平成28年10月13日(木) 10時00分～11時30分	担当部局	議会事務局
視察事業名	予算・決算審査について	
報告内容	1 視察先の概要 ・面積 51.39 km² ・人口 193,000 人 ・議員定数 28 名 (H26 年 12 月改選時定数 32→28 に減員) ・常任委員会 総務、福祉、産業都市、文教安全 の4委員会 2 視察先の特徴 八千代市は成田街道の宿場町を起源とし、東京から 30 km圏に位置する。市の北半分は新川沿岸を中心に豊かな田園風景が広がり南半分に市街地が形成されている。1955 年に日本初となる大規模住宅団地が誕生して以来、交通の便と自然環境の良さから急速に住宅都市として発展してきた。 東葉高速鉄道沿線の 4 駅周辺では魅力ある新市街地づくりが進み、駅前には大規模商業施設や高層住宅が形成されている。	

考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	◆八千代市議会 予算・決算審査特別委員会の概要◆ 3 月定例会に予算審査特別委員会、9 月定例会に決算審査特別委員会が設置される。 補正予算については 4 つの常任委員会に分割付託されて審査を行う。 A) 定例会 1 週間前に開催の議会運営委員会から特別委員会の審査までの流れ ①定例会 1 週間前に議運を開催。「特別委員会設置及び運営要領」を決定する。 ②定例会開会日の正午までに、各会派から議会事務局に、会派から選出する委員の届け出を行う。 ③一般質問の最終日に本会議の議決により正式に特別委員会が設置される。同日、本会議において議長から委員の指名、その後、本会議を休憩し、特別委員会を開催して正副委員長の互選を行う。本会議を再開し、特別委員会正副委員長互選の結果報告を行う。 ④概ね常任委員会を開催したその翌日に特別委員会を 4 日間開催し、予算・決算議案の審査を行う。 B) 委員の選任 「特別委員会設置及び運営要領」に従い、会派からの選出を基本とし、会派に所属する議員の中から 2 人に 1 人の割合で選出する。 ※八千代市では会派の構成要件は 2 名以上となっている。また、奇数人の会派は小数点切り下げ。例えば 3 人の会派ならば半分の 1.5 人となるが、切り捨てで 1 名の委員を選出。 なお、会派に所属していない議員は特別委員会に入ることができない。(傍聴は可能) C) 審査方法 「特別委員会設置及び運営要領」により、4 日間で、一般会計、特別会計、企業会計の当初予算議案、または決算議案の審査を行う。一般会計は部局ごとに、特別会計と企業会計は会計ごとに、執行部より提案理由説明、質疑を行い、すべての質疑終了後、討論、採決を行う。 質疑は、会派ごとに会派の構成議員数に比例した質疑時間の上限を設定し、委員は 4 日間の審査においてその時間の範囲内で質疑を行う。時間の計測は、エクセルで作成した時間計測システムを使って行い、委員が発言した時間のみの計測を行っている。
---	--

D) 決算審査特別委員会における事前の資料請求

決算審査特別委員会では、各会派から決算審査に必要な資料の申し出を議長に提出し、議会事務局で取りまとめ、議長名で市長に対し資料の提出を要求している。

申し出の期限は、定例会開会日正午まで。H27 年度決算審査特別委員会の請求資料数は 26 項目であった。

◆上田市議会に活かせること（まとめ）◆

八千代市議会では、予算・決算議案を予算・決算審査特別委員会に一括付託しており、「議案一体の原則」に符合した委員会運営が行われていた。

予算・決算委員会は、特別委員会としており、常時開催できる常任委員会にはなっていなかったが、その背景には、補正予算審査は各常任委員会への分割付託となっているためであろう。

上田市議会でも、今後の議会運営の中で、予算決算の委員会を設置する場合、常任委員会とするのか特別委員会とするのか、さらなる検討が必要となろう。

また、予算・決算議案を一括付託する場合、八千代市のように議員から半数を選出し委員会を構成する方法と、予算・決算委員会へ一括付託するものの、各常任委員会へ分担付託し、専門性を生かした審査を行う方式があるが、前者は議員の半数だけしか審査に加われないのに対し、後者は議員が全員参加で審査を行えるという相違点が認められる。

この方法論についてはそれぞれ、メリットとデメリットがあり、この点についても市議会の中で論点整理をしながらより望ましい方向性を導き出していかなければならない。

議会の大きな仕事として、行政の予算チェック機関としての機能があげられるが、より高いクオリティーで審査するためにはどういう形が望ましいか、長期的な視点に立って制度設計していかなければならない。

そのほか、八千代市では質問時間を会派ごとに割り振り、厳格な時間管理の中で効率的な議案審査に努めようという姿勢がみられた。

また、会派に所属していない議員に予算・決算の審査権が付与されていないところを見ると、会派制をかなり重んじている議会だと感じた。

上田市議会にあっては、議案のボリュームにもよるが、審査を尽くすことに重点が置かれているようにも感じるが、各議員が事前の議案検討を十分に行い、要点を絞った質問を行うことによってさらに効率の良い委員会運営が可能になるのではないかとということも感じた。

いずれにしても、市民の付託に十分応えうる市議会を目指して、われわれ議員は、議会を客観的に見て議会改革と円滑な議会運営を行う姿勢を持ち続けたいものである。

最後に、八千代市議会の関係者の皆様に感謝申し上げ、報告いたします。

